## 標本レスキュー活動

真鍋 真\*

\*国立科学博物館

## Museum "rescue" activities

Makoto Manabe\*

\*National Museum of Nature and Science, 4-1-1 Amakubo, Tsukuba 305-0005, Japan (manabe@kahaku.go.jp)

Abstract. On 1 April 2011, the Agency for Cultural Affairs started a project to save cultural properties damaged during the 11 March 2011 Great East Japan Earthquake and associated tsunami. Since the title of the project was "A Rescue Project to Save Cultural and Other Properties," it gave the impression that natural history specimens were not covered by the project. The scientific community, including natural history museums throughout Japan, offered their help to decimated museums in Tohoku within a few weeks after the disaster. Due to the sheer scale of the disaster, Japanese bureaucratic systems were slow to respond to requests for help from damaged or destroyed museums. Accordingly, in the immediate aftermath of the earthquake and tsunami, museum specimens were rescued thanks to voluntary activities of "The Network of Museum Curators of Iwate Prefecture" and "The Network of Natural History Museums in Western Japan". These networks of volunteers functioned surprisingly well in response to pleas for help from local museum curators like Masaru Kumagai. Kumagai believed that it was critical to save museum specimens since these collections support the identity of local communities.

**Key words:** Great East Japan Earthquake, tsunami, rescue, museum specimen, network of museums and curators

#### はじめに:日本古生物学会の取組み

内外の自然災害に対して, 日本古生物学会の会員はこ れまでもそれぞれ個別に活動して来た実績があるが、こ の度の東日本大震災においては,本会の歴史上,学会を あげて対応したおそらくは初めての事例となった. 2011 年4月2日に開催された日本古生物学会2009・2010年度 第9回常務委員会で、被災地域に居住する会員の安否確 認、学会に関係する機関・組織の被害状況の情報収集を 開始し、2011年6月6日には「被災博物館等レスキュー 委員会」を設置し、日本学術会議主催の「緊急集会:被 災した自然史標本と博物館の復旧・復興にむけて—学術 コミュニティは何をすべきか?」を後援した(図1). ま た,2011年10月4日から7日まで,岩手県陸前高田市立 博物館の標本の洗浄,除菌,同定,分類などの作業を支 援した (間嶋, 2012). 陸前高田市立博物館の化石標本の 台帳が損失してしまったため、2012年6月以降、各分類 群の専門家を現地に派遣し、標本の同定、分類、標本デー タベースの作成等の支援を継続している. また、被災地 の会員から申し出があれば、状況に応じて年会費を免除 する措置を決め、平成23年度、24年度に実施している。

#### 文化財レスキュー

東日本大震災が起こってから約3週間が経過した2011 年4月1日,文化庁は「東北地方太平洋沖地震被災文化 財等救援事業(以下文化財レスキュー)」を開始した. 文 化財レスキュー事業が立ち上げられたのは, 阪神・淡路 大震災の経験に基づくものだった. しかし, 東日本大震 災は,阪神・淡路大震災よりも広い地域にわたり,加え て大津波による甚大な被害をもたらしていたことから, 日本の博物館等文化施設が経験した最も深刻な事件だっ たと言えるだろう. 文化財レスキューにおいては、東京 文化財研究所に被災文化財等救援委員会の事務局が設置 され、寄付金・義援金を募ることから始まった. 国指定 文化財や登録文化財は文化庁が調査を行って被害を把握 していたので、文化財レスキューの主な対象は県指定文 化財のように地方自治体が指定したものや、未指定の文 化財とされた. 活動資金には文化庁長官の呼びかけによっ て集められた、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成 財団への義援金が充てられた. 救援委員会の活動は、被 災県からの救援要請に基づき, 所有者の同意のもとで被 災標本・資料を救出し, 応急処置をほどこし, 預り証を 発行して一時保管を行うことを基本とした(六川, 2011).

化石93号 真鍋 真



### 日本学術会議 公開シンポジウム

## 「緊急集会:被災した<mark>自然史標本</mark>と <mark>博物館の復旧・復興</mark>にむけて 学術コミュニティは何をすべきか?」

日時:2011年6月6日(月)13:30~17:10

場所:日本学術会議・講堂【申込不要、入場無料:どなたでもご参加いただけます】

第一部:いまを知る

1330-1335: 開催あいさつ 西田治文(中央大学)

1335-1345:緊急集会の趣旨について

真鍋 真(国立科学博物館)

1345-1405: 文化財レスキューについて

六川真五(東京文化財研究所) 1405-1425:岩手県の状況報告 大石雅之(岩手県立博物館) 1425-1445:宮城県の状況報告

佐々木理(東北大学総合学術博物館)

1445-1505:福島県の状況報告 竹谷陽二郎(福島県立博物館)

1505-1530:休憩



岩手県陸前高田「 海と貝のミュージア」ムのツチクジラ剥製

東日本大震災による自然史標本及び収蔵施設の救済を支援し、将来にわたり標本と施設を災害から守るための対策を提言するために、意見交換を行うことを目的とした緊急集会です。 お問い合わせ先:

MAIL: naturalhistory.scj@gmail.com http://twilog.org/NaturalHistoryJ



1530-1550: 水族館の事例報告 岩田雅光 (アクアマリンふくしま)

1550-1610: 藻類標本8万点の損失事例報告

吉崎 誠(元東邦大学)

第二部:1610-1700: これからを考える 指定討論者

- 佐久間大輔(大阪市立自然史博物館)
- ·岡本 真(saveMLAK)
- · 萬谷宏之(文部科学省生涯学習政策局社会教育課)
- ・栗原祐司(文化庁文化財部美術学芸課)

進行:西田治文・真鍋 真

1700-1710:結語:斎藤靖二

(神奈川県立生命の星・地球博物館)



日本学術会議 (千代田線·乃木坂 徒歩1分) http://www.scj.go.jp/

図1.「緊急集会:被災した自然史標本と博物館の復旧・復興にむけて―学術コミュニティは何をすべきか?」(2011年6月6日開催)のポス

Fig. 1. A poster of the symposium to help decimated museums at the Science Council of Japan on 6 June 2011.



図2. 陸前高田市立博物館で被災した昆虫標本の一例(真鍋 真, 2011年4月27日撮影).

Fig. 2. Damaged insect specimens at the Rikuzen Takata City Museum. Photographed by Makoto Manabe on 27 April 2011.

#### 文化財レスキューにおける自然史標本

自然史標本は文化財として登録されていないことが普通なので、「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業」の対象にはなっていないような印象を与えるが、文化庁としては当初から自然史標本が「等」に含まれると想定していたそうである(栗原、2011)。しかし、「等」の中に自然史標本が含まれるということは、十分に周知されていたとは言いがたい。危機感を持っていた自然史関係者が独自に率先して動いたことによって、最終的には多くの標本の回収・復旧に繋がった。文化財レスキューの中に自然史標本が含まれることが周知されていれば、さらに効率的なレスキューが行えたのではないだろうか。

陸前高田市教育委員会からの最初の支援要請内容は吉田家という旧家に伝わる古文書のレスキューだった. しかし,実際にレスキュー作業を行って見ると,古文書はカビがはえても修復できる場合があるのに対して,昆虫標本(図2)や植物標本は修復できなかったものが多かった.熊谷賢氏(陸前高田市立博物館)は,自然史標本の方がレスキューの優先度が高かったと振りかえっている(栗原ほか,2012).

現生種の標本の場合、レスキューや修復に労力をかけるよりも、新たに採集してきた方が良いのではないかという意見もあるかもしれない(熊谷・砂田,2012)。しかし、過去には広く分布していたが、今では生息していない種や、体サイズなどの時間に伴う変遷などについては、地域の博物館に蓄積された標本とそれに伴う採集記録無くしては調査・検証出来ないことは言うまでもない。また、地域の博物館の標本には、採集者に関することなどその来歴に物語がある場合が少なくない。

筆者は、そのような活動と、東北地方の古生物学と地



図3. 早坂一郎が記載し,宮沢賢治,鳥羽源藏の名前を謝辞に記したクルミ化石.「恐竜博2011」(第二会場)(真鍋 真撮影).

Fig. 3. Ichiro Hayasaka described the fossil walnuts in Hayasaka (1926). He acknowledged Kenji Miyazawa and Genzo Toba for taking him to the fossil site. The fossils were on display at the Dinosaur Expo 2011. Photograph by Makoto Manabe.

質学の重要性を広く知ってもらうために、2011年7月2日から10月2日まで国立科学博物館で開催された特別展「恐竜博2011」に、特設会場を設けた。福島、宮城、岩手の各地でレスキューされた標本と、首長竜、魚竜、モササウルス類などの最新標本を展示した。陸前高田出身で、「岩手博物界の太陽」と称された鳥羽源藏氏の鳥羽家も津波で被災した。鳥羽源藏コレクションの中には、かの宮沢賢治が発見し、早坂一郎博士が記載し(早坂、1926)、「銀河鉄道の夜」にも登場するクルミの化石が収蔵されていた。鳥羽家に保管されていたと思われる標本は被災し、残念ながら発見されていたと思われる標本は被災し、残念ながら発見されていたいが、鳥羽から斎藤報恩会自然史博物館に寄贈されていた一部の標本は、現在は国立科学博物館に収蔵されている。その中には上述のクルミの化石も含まれていたので、「恐竜博2011」の特設会場で展示することが出来た(図3)。

#### 各地の救援活動

宮城県からは救援委員会が発足する前の3月の時点で すでに救援要請があり、現地本部が仙台市立博物館に設 置され、宮城県教育委員会が作成した救援リストを基に、 化石93号 真鍋 真

石巻文化センターなどの資料のレスキューが開始された. しかし、現地本部が現場作業を把握して、本部として十 分に機能し始めたのは5月か6月になってからだったと いう (神庭ほか, 2011). 宮城県では、これとは別に、東 北大学総合学術博物館が、県内のガソリン・食料供給の 回復を待って、2011年4月4日から独自に救援活動を開 始していた(佐々木, 2011). 岩手県から文化庁に支援要 請が行われたのが5月、茨城県、福島県は7月だったが (六川, 2011), それぞれの県でも, 独自の活動が先行し て行われていた。岩手県は後述の通り、陸前高田市教育 委員会から一関市立博物館の支援要請が3月30日になさ れていた. 福島県のいわき市のアクアマリンふくしまは, 津波の被害を受けた直後から, 飼育動物を鴨川シーワー ルド, 葛西臨海水族館など全国153の水族館, 動物園へ 避難させる必要があった (岩田, 2011). アクアマリンふ くしまが2011年7月に再開することになったため、いわ き市石炭化石館なども追随して再開することになった. 平行して, いわき市石炭化石館やいわき自然史研究会の メンバーは、避難所で化石教室を開くなどの活動を展開 していた (真鍋, 2011a). しかしながら, 原子力発電所 の事故の影響で立ち入ることの出来ない地域の施設では, いまだに状況確認すら十分に行えていない.

#### 日本学術会議: 自然史・古生物学分科会の取組み

日本学術会議に常置されている自然史・古生物学分科会の2011年4月25日に開催された第4回分科会で、公開シンポジウム「緊急集会:被災した自然史標本と博物館の復旧・復興にむけて一学術コミュニティは何をすべきか?」を2011年6月6日に日本学術会議で開催することが決まった。シンポジウムは、統合生物学委員会自然史・古生物学分科会が主催し、自然史学会連合が共催、日本古生物学会、日本人類学会、日本植物分類学会、生物多様性JAPANの後援で、日本学術会議の講堂を会場に開催され、札幌から熊本まで160名以上の参加者があった(斎藤ほか、2011)。自然史・古生物学分科会は、公開シンポジウムの最後に次のような結語を発表し(真鍋、2011b)、現在もこの方向性で活動を継続している。

# 「緊急集会:被災した自然史標本と博物館の復旧・復興にむけて―学術コミュニティは何をすべきか?」結語

自然史標本・資料,それに関わる人々がおりなすコミュニティが,人類共通の財産であるという共通認識に基づき,東日本大震災による自然史標本及びその収蔵施設,コミュニティへの被害に対して迅速な救済を支援し,変動する自然と社会状況に応じて,恒久的な保全をするための組織体制づくりを急務と考える。自然史・古生物学分科会はワーキンググループを設置し,以下の項目について、関係機関、団体等と協議を行う。

#### A. 緊急的対応

- 1. 自然史標本, 資料, データ等のレスキュー
- 2. 施設の活動再開支援
- 3. 救済活動を支援する財源の確保にむけた体制づくり

#### B. 中長期的対応

- 1. 自然史系標本資料等の恒久的な保全を目指した組 織体制の確立
- 2. 自然史教育の推進と充実

#### 学芸員・学術コミュニティのネットワーク

岩手県では、停電やガスの供給停止から復旧し、ガソリン不足などが緩和され、岩手県立博物館による標本レスキューが開始されたのが2011年4月2日だった.5月2日からは被災文化財等救援委員会の支援を受けて、作業が行われた(赤沼,2012).陸前高田市は約19.8メートル(遡上高)の大津波によって人的にも物的にも東日本大震災の中でも最も深刻なレベルの被害を受けた。陸前高田市立博物館は6名の職員全員が死亡もしくは行方不明になった。陸前高田市立博物館が被災博物館の中では有数の深刻な状態にあったのにもかかわらず、早くから標本レスキューに着手出来たのは、岩手県の博物館の学芸員たちが、日頃から「学芸員ネットワーク・いわて」という活動を通して交流していたからである。このネットワークの2007年12月の研修会(第10回例会)は陸前高田市中央公民館が会場だった。

前川さおり氏(岩手県・遠野市立博物館)は「学芸員 ネットワーク・いわて」などの活動を通して、陸前高田 市の博物館職員とは密接な交流をしていた。3月28日に 陸前高田に行き, 瓦礫の間をぬって博物館の建物に入っ た際、標本が散乱した部屋の中に紙切れが置かれている のを見つけた. そこには「博物館の資料を持ち去らない でください.高田の自然・歴史・文化を復元する大事な 宝です」と書かれていた(図4). 前川氏は、陸前高田で 唯一無事が確認されていた学芸員の熊谷 賢氏(当時・ 海と貝のミュージアムに所属) に「いまは目の前の人の ために災害支援の仕事に就いて動けないかもしれない. だけど博物館の文化財をレスキューする時が来たら、必 ず声を掛けて欲しい!」という手紙を書き、陸前高田市 災害対策本部に託した. この手紙は熊谷氏が博物館の標 本レスキューを始めるきっかけのひとつになったという (前川, 2011).

その後、岩手県立博物館のレスキュー活動が本格化するが、県立博物館だけでは処理しきれない標本があった。5月上旬に、西日本自然史系博物館ネットワークなどに後方支援の依頼がなされ、その後、全国的な標本レスキュー活動に発展し、全国で50以上の組織が参加していった(鈴木、2011)。緊急時には文書による依頼や指示



図4. 陸前高田市立博物館の中に置かれていたメモ(前川さおり氏 提供)。

Fig. 4. Anonymous note left at the Rikuzen Takata City Museum and found on 28 March 2011. It reads, "Please do not remove museum specimens. These are precious items to help us to reconstruct nature, history and culture of Rikuzen Takata." Photograph by Saori Maekawa.

など垂直的な組織構造を背景としたシステムは機能しない. 西日本自然史系博物館ネットワーク (佐久間, 2011) やsaveMLAK (岡本, 2011) といった組織の力に助けられた部分が非常に大きかった.

#### さいごに

本論文では、日本古生物学会や日本学術会議などが行った自然史系のレスキュー活動の概要をまとめた。自然史系のチームワークの良さは人文系でも高く評価されていて、歴史民俗系の博物館でもネットワーク化に着手している(国立歴史民俗博物館、2012)。しかし、「学芸員ネットワーク・いわて」のような顔の見えるつながりがあったからこそ、そこから全国的な支援に繋がって行ったことがわかっている。標本レスキュー活動をいま振り返ってみると、熊谷 賢氏 (陸前高田市立博物館)の「文化財の残らない復興は真の復興ではない。それは、この土地の自然、文化、歴史、記憶の集積であり、陸前高田のアイデンティティだからです」(熊谷、2011)という言葉に代表されるように、地元の人たちの博物館や標本・

資料に対する情熱があった. だからこそ地域の, そして 全国的なネットワークがそれに応えることが出来たので はないかと考えている.

#### 文献

赤沼英男,2012. 岩手県立博物館における文化財レスキューの現 状と課題. 国立歴史民俗博物館,被災地の博物館に聞く,10-59, 吉川弘文堂.

早坂一郎, 1926. 岩手県花巻町産化石胡桃に就いて. 地学雑誌, (444), 1-11.

岩田雅光, 2011. よみがえれ!アクアマリンふくしま復興計画. 学 術の動向, **16**(12), 46-47.

神庭信幸・青木 睦・西田治文・栗原佑司,2011. 巻頭特別座談会「日本の文化財レスキュー」. カルチベイト,(38),6-15.

国立歴史民俗博物館編, 2012. 被災地の博物館に聞く. 247p., 吉川弘文堂.

熊谷 賢, 2011. 土地の「物語」を諦めない(杉井昭仁によるインタビュー記事). 朝日新聞社, 3・11後ニッポンの論点, 252-254, 朝日新聞出版.

熊谷 賢・砂田比左男, 2012. 陸前高田市の被害状況―博物館施設を中心に―. 国立歴史民俗博物館, 被災地の博物館に聞く, 60-109, 吉川弘文堂.

栗原佑司, 2011. 文化財レスキューと自然史関係資料. 学術の動向, **16**(12), 48-49.

栗原佑司・湊 敏・佐々木健・熊谷 賢・中村仁彦・赤坂憲雄, 2012. 文化と災害復興 (パネルディスカッション). 遠野学, 1, 96-113.

前川さおり,2011. 博物館学芸員による文化財レスキュー(齊藤 恵理によるインタビュー記事). カルチベイト,(38),20-27.

間嶋隆一,2012. 日本古生物学会博物館レスキュー活動に参加して. 化石,(91),56-59.

真鍋 真, 2011a. 地域の記憶を継承する場としての博物館. 海洋と生物, **33** (5), 395-402.

真鍋 真, 2011b. 東日本大震災:学術コミュニティが取り組むべき現在と未来. 全科協ニュース, 41(5), 5-7.

岡本 真, 2011. saveMLAK. 学術の動向, 16(12), 54-55.

六川真五,2011. 文化財レスキューの意義と経過. 学術の動向,16 (12),36-37.

斎藤靖二・西田治文・真鍋 真,2011.「緊急集会:被災した自然 史標本と博物館の復旧・復興にむけて一学術コミュニティは何を すべきか?」を開催して、学術の動向,16(12),56-59.

佐久間大輔, 2011. 西日本自然史系博物館ネットワークはなぜ即 応体制を取れたのか. 学術の動向, **16**(12), 52-53.

佐々木 理, 2011. 宮城県自然史標本レスキュー活動報告. 学術の動向, **16**(12), 42-43.

鈴木まほろ, 2011. 陸前高田市立博物館所蔵押し葉標本のレスキュー. 全科協ニュース, 41(5), 1-3.

(2012年10月30日受付, 2013年1月9日受理)

